



# YELL

第66号

那須教育事務所  
ふれあい学習課  
〒324-0056  
栃木県大田原市中央 1-9-9  
Tel:0287(23)2177(代)

VERY  
GOOD  
LOCAL  
とちぎ

## 地域連携教員インタビュー特集

6月に開催した「地域連携教員研修」への御参加、並びにアンケートの御協力、ありがとうございました。いただいた御意見、御感想等は、今後の研修内容や実施方法に役立ててまいります。さて今回は、本地区の地域連携教員に、取組の工夫や心がけていること等を伺ってきました。今後の活動の参考にさせていただければ幸いです。



【生徒による似顔絵】

### 大田原市立黒羽中学校 教諭 坂本 央子 氏

現在は、地域連携教員の私が学校全体を見渡して、地域と連携すると効果が上がりそうな活動をピックアップし、管理職と相談しながら地域コーディネーターに伝えていきます。今はまだ地域との連携・協働が動き始めたところで、地域コーディネーターにも学校のニーズを伝えきれていない部分が多く、手探りで進めている状況です。

地域コーディネーターとは学校運営協議会でお会いするので、そこで情報交換をしています。また、必要に応じて電話でのやりとりを行っています。地域コーディネーターは、可能な限りニーズをかなえるために動いてくれます。そして地域の方々も、地域コーディネーターの声掛けに快く応じてくれます。



《地元観光ボランティアによる授業》

地域コーディネーターからは、地域人材のコーディネートだけでなく、活動に関してもアドバイスをいただいています。「こういうことをしたいのだけれども、どうしたらいいか。」といった相談をすると一緒に考えてくれるので、学校の状況等は率直に伝えていきます。困っていること、分からないことなどは地域連携教員一人が抱えるのではなく、地域コーディネーターと一緒に考えると良いと思います。

学校と地域が連携・協働する意義について、学校全体での理解を深めていきたいと考えています。そのためには地域と連携するメリットを実際に感じてもらう必要があります。できる活動から始めて、少しずつ活動の意義が浸透してくれればと思います。

学校と地域の連携・協働は、「教育活動の充実」が目標であると考えていますので、生徒の活動を充実させる効果が期待できるのであれば、積極的に地域と関わるべきだと思います。地域と生徒が関わることで、地域と学校の双方に生まれるプラス面が非常に多いと感じています。



### 那須町立東陽小学校 教頭 月井 浩幸 氏

学校と地域が連携・協働することの意義について、関係する方々の理解が重要だと感じており、教職員だけでなく保護者にも、PTA全体会等を通して伝えていきます。そのため、保護者の学校運営協議会に対する理解度は年々上がっています。

地域連携会議を月に一度開き、地域教育コーディネーターとの情報交換をしています。1時間程の会議で、大半を雑談に費やしてしまうこともありますが、気軽に雑談できる関係性を築けたことで、地域学校協働活動について遠慮なく意見を交わすことができます。

地域の方々は、児童のために見えないところで環境整備等を行ってくれています。そういった方々へ教職員の目を向かせるのも、地域連携教員の役目だと思っています。私たち教職員が感謝の気持ちをもつことで、自然とそれが児童にも伝わっていくからです。

〔裏面に続く〕

地域の方々は、子供のために、地域のためにという強い思いをもっています。学校と地域が連携・協働することによって、その思いが子供たちに受け継がれ、子供たちが大人になったとき、更にその子供たちに受け継がれていくでしょう。今の教育活動の成果は、子供たちが大人になったときに地域へ還元されます。今ここで、学校と地域の連携・協働を止めてしまったら、将来この地域には何も返ってきません。



学校と地域の連携・協働に関して、地域連携教員が一人で全てを背負うことはありません。私も、他の教職員や地域の方にたくさん頼っています。地域連携教員として、地域と児童、地域と教職員をつなぐパイプ役ができていれば大丈夫だと思っています。学校・地域・子供たちをつなぐ要となるのが、地域連携教員。この肩書きを、私は誇らしく思います。また、地域の方と関わりながら、人間的に成長できるのも、地域連携教員の良いところです。

《地域連携室「応援隊ルーム」》



## 那須塩原市立西小学校 教諭 田代 展章 氏

本校では毎月「定例会」を開いて、地域学校協働活動推進員（以下、推進員）と情報交換を行っています。推進員を通さない地域学校協働活動についても報告し、御理解いただいています。学校と地域が関わっている活動について推進員が知らされていないというのは、良い状況とは言えません。

私は、地域学校協働活動の詳細を地域と共有することが必要だと感じています。教職員は異動してしまいますが、活動に関するノウハウが地域と共有されていれば、推進員を中心に、地域学校協働活動を地域で回してもらうことも可能だと考えています。

かつて先輩教員に「学校の周りに地域があるのではなく、地域というコミュニティの中に、公民館や学校といった施設がある」と教えていただきました。それ以降、私は地域に出たり、地域へのフィードバックを意識したりするようになりました。学校から外を見るのではなく、コミュニティの一要素として学校を捉えていますので、学校と地域の連携は「ご近所づきあい」の感覚に近いかも知れません。その関係性が、“地域とともにある学校”にもつながるのではないかと考えています。



《地域学校協働活動推進員の紹介》

学校と地域の連携・協働の入口を私が作ることで、他の先生方も地域と連携しやすい環境ができればと思います。地域の方の力を借りることで、教職員の負担が減ります。それは結果として、子供たちに注ぐ力が増えることとなります。つまり、地域の大人が引き受けてくれた分の時間を、地域の子供に返すことができるということです。

地域の方もやりがいや生きがいを感じる部分は大きいと思いますし、子供たちや先生方にも、もっといろんな人といろんな事をやった方が学校って楽しいよね、ということを伝えていきたいです。そのためには、自分がいかに楽しむか、ということが大切だと思います。

### 那須地区社会教育主事有資格者ステップアップ研修の御案内

○日時：令和3年11月30日 14時開会 ○開催方法：オンライン開催

○内容：講話「なぜ、学校と地域の連携・協働が必要なのか」

講師 特定非営利活動法人 教育支援協会 代表理事 吉田 博彦 氏

※ 詳細は後日通知いたします。状況により開催方法が変更になる場合があります。



那須教育事務所  
ホームページ